

第11回 木曾三川下流域自然再生検討会

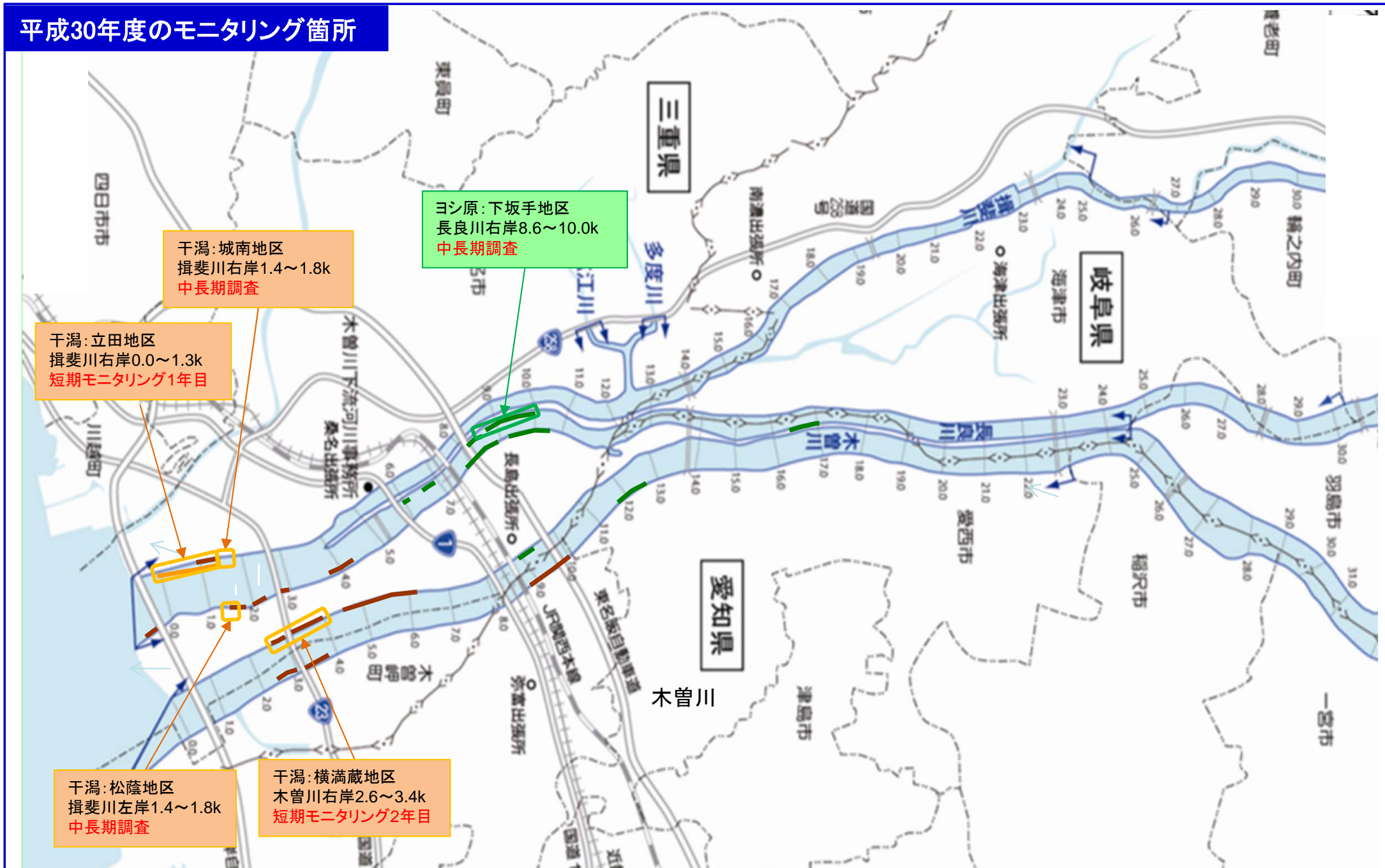
【平成30年度の取組みについて】

平成31年3月28日

国土交通省 木曾川下流河川事務所

平成30年度 モニタリング箇所

平成30年度のモニタリング箇所



平成30年度 モニタリング項目

■自然再生事業実施箇所について、自然再生計画書に基づいたモニタリングを実施しており、平成30年度の実施箇所は下記のとおり実施した。

表－1 平成30年度の調査地区・調査項目・調査時期・調査回数

調査区分	調査項目	(測量)	水質	底質	魚類	底生動物	陸上昆虫類	哺乳類	鳥類	ヨシ生育調査	
ヨシ原	調査時期・回数	ヨシ原再生地区は該当しない	水文水質観測のデータ等を活用	夏～冬期(2回)	8月(1回)	8月(1回)	8月(1回)	11月(1回)	6～7月(1回)	8月(1回)	
	事後調査 1年目	背割堤地区 長良川左岸 16.4～17.0k	—	—	○	○	○	○	○	○	
	中長期	下坂手地区 長良川右岸 8.6～10.0k	—	—	○	○	○	○	○	○	
調査区分	調査項目	測量	水質	底質	魚類	底生動物	(陸上昆虫類)	(哺乳類)	鳥類	(ヨシ生育調査)	
干潟	調査時期・回数	出水期後(1回)	水文水質観測のデータ等を活用	夏～冬(2回)	夏-8月 秋-9～10月 (2回)	夏-8～9月 冬-12～翌2月 (2回)	干潟再生地区は該当しない	干潟再生地区は該当しない	秋(秋の渡り)-9月 冬(越冬期) 12月～翌2月 (2回)	干潟再生地区は該当しない	
	事後調査 1年目	立田地区 揖斐川右岸 0.0～1.3k	○	—	○	○	○	—	—	○	—
	2年目	横満蔵地区 木曾川右岸 2.6～3.4k	○	—	○	○	○	—	—	○	—
	中長期	城南地区 揖斐川右岸 1.4～1.8k	○	—	○	○	○	—	—	○	—
	中長期	松蔭地区 揖斐川右岸 1.4～1.8k	○	—	○	○	○	—	—	○	—

干潟再生箇所の評価(立田地区)

平成30年度のモニタリング箇所



2018.5.16(H30)_揖斐川右岸 立田地区

◆整備内容

◆調査年度

整備年度	整備内容	事前	短期	中長期
平成25年	水制工 1基	H27~H28	H30	-
平成26年	水制工 1基			
平成27年	水制工 1基			
平成28年	養浜(干潟造成)2箇所			

■調査結果のまとめ

- 養浜直後(H28年度)であり、干潮時には干潟が形成されている。
- 指標となる魚類(ハゼ類、カレイ類)は増加傾向であるが、底生動物や鳥類は減少傾向。自然干潟(水国地点)と比較すると指標となる生物の種数等は少ない。

■評価

- 指標となる生物が確認されており、形成された干潟環境を利用していると考えられた。
- 今後はモニタリングを継続し、出水による影響に留意しつつ、養浜により形成された干潟が維持されるか、指標となる生物が定着しているかを把握する。

干潟再生箇所の評価(横満蔵地区)

平成30年度のモニタリング箇所



2018.5.17(H30)_木曽川右岸 横満蔵地区

◆整備内容

◆調査年度

整備年度	整備内容
平成24年	水制工 2基
平成26年	水制工 1基
平成27年	水制工 1基

事前	短期	中長期
H27	H29、H30	-

■調査結果のまとめ

- 指標となる魚類(ハゼ類、カレイ類)の種数や底生動物は減少傾向であるが、鳥類の種数は増加傾向である。
- 自然干潟(水国地点)と比較すると、指標となる生物の種数等はまだ少ない。

■評価

- 指標となる生物が確認されており、形成された干潟環境を利用していると考えられた。
- 今後はモニタリングを継続し、出水による影響に留意しつつ、養浜により形成された干潟が維持されるか、指標となる生物が定着しているかを把握する。

ヨシ原再生箇所の評価(下坂手地区)

平成30年度のモニタリング箇所



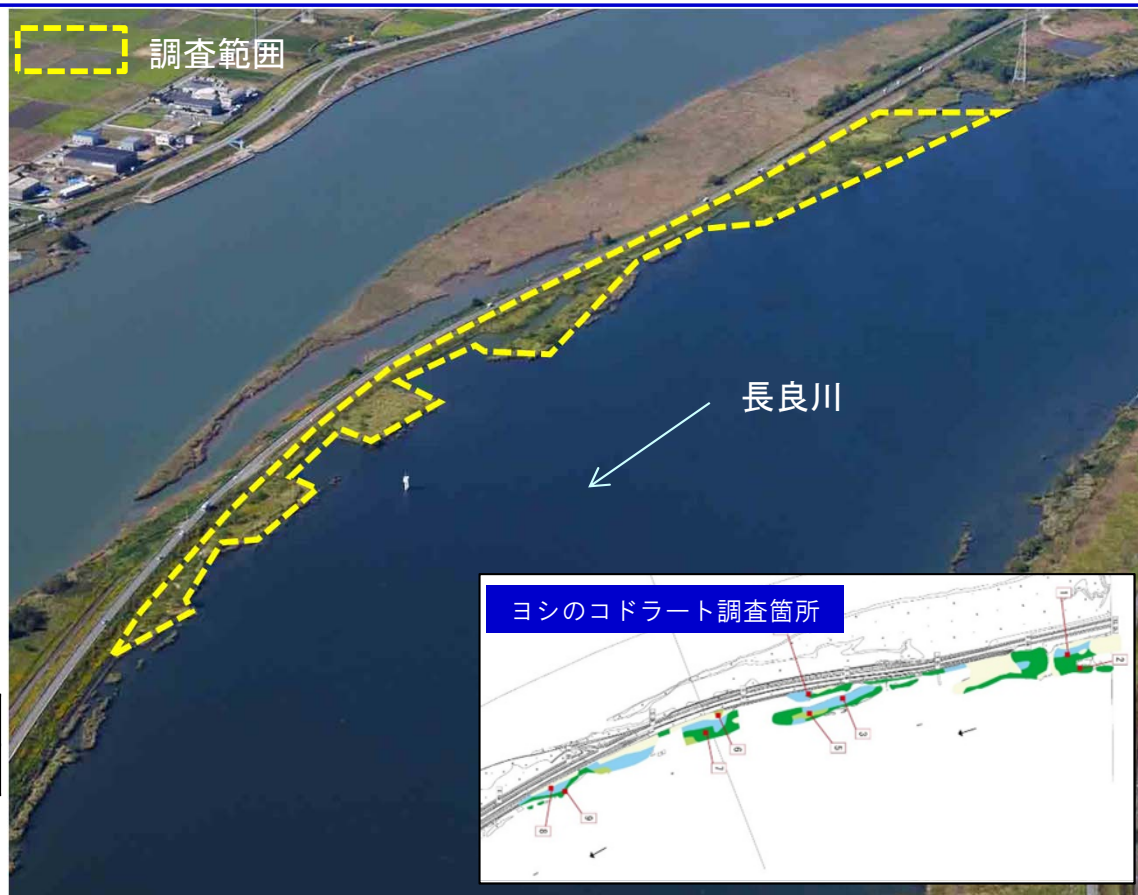
ヨシ原:下坂手地区(事後調査)
長良川右岸8.6~10.0k

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成15年	環境帯・土のう+盛土 8箇所
平成22年	大型土のう+盛土(ヨシ根土、採取土)2箇所 木工沈床2箇所

◆調査年度

事前	短期	中長期
H15	H16~H18	H25、H30



2012(H24) 長良川右岸 下坂手地区

■調査結果のまとめ

- 整備後15年が経過し、ヨシ原は水際部中心に形成・維持され、カヤネズミやオオヨシキリは経年的に確認されている。

■評価

- 指標となる生物の利用が確認され、これら生物の生息環境として機能していると考えられた。
- ヨシ原内に、セイタカアワダチソウやアカメガシワ(木本類)の侵入や、岸側でヨシ被度の低下がみられ、再生箇所の乾燥化が懸念される。今後も植生の遷移に留意し、モニタリングを継続する。

干潟再生箇所の評価(松蔭地区)

平成30年度のモニタリング箇所



2018.5.17(H30)_揖斐川左岸 松蔭地区

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成22年	水制工 3基

◆調査年度

事前	短期	中長期
H15	H16~H18	H25、H30

■調査結果のまとめ

- 干潟は殆ど形成されておらず、平成25年度のモニタリング時に確認された干潟も平成30年度時には消失していた。
- 整備後7年が経過し、指標となる魚類、底生動物、鳥類は事前調査と比較して増加傾向であった。

■評価

- 本地区は、長良川と揖斐川の水衝部であり、養浜等の対策を実施しても出水時に流出する可能性が高く、干潟が形成されにくい箇所と考えられた。
- 今後は、土砂の堆積状況をUAV等でモニタリングし、干潟の形成状況について把握する。

干潟再生箇所の評価(城南地区)

平成30年度のモニタリング箇所



2018.5.16(H30) 揖斐川右岸 城南地区

◆整備内容

整備年度	整備内容
平成6年	水制工 2基
平成9年	養浜
平成24年	養浜

◆調査年度

事前	短期	中長期
H5 (底質のみ)	H7-H10	H23、H30

■調査結果のまとめ

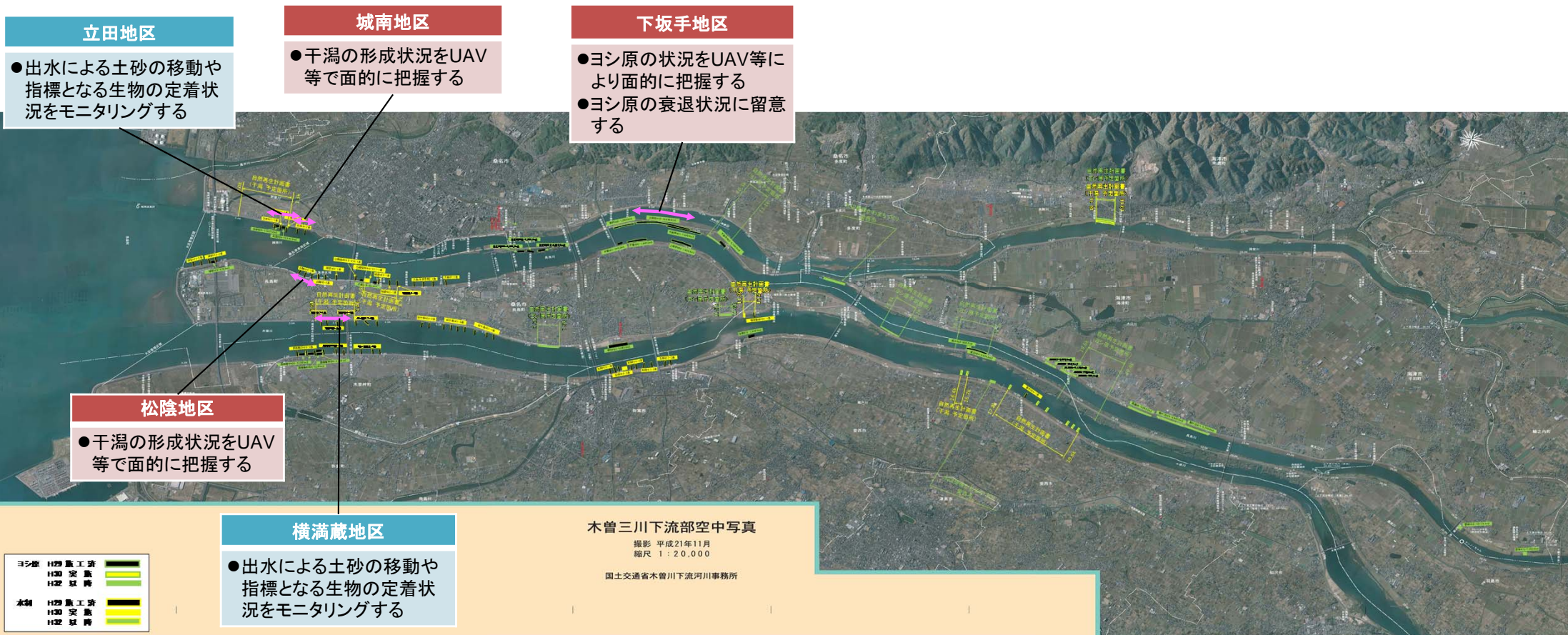
- 整備後24年が経過し、その間2回の養浜の実施により、干潟が形成されている。
- 指標となる魚類、底生動物、鳥類は短期モニタリングと比較して増加傾向である。

■評価

- 指標となる生物の利用が確認され、これら生物の生息環境として機能していると考えられる。
- 養浜後の出水により、徐々に土砂の流出が見られる。これらは設置した水制が短く、土砂が堆積しにくい可能性があるため、今後改良を検討する。

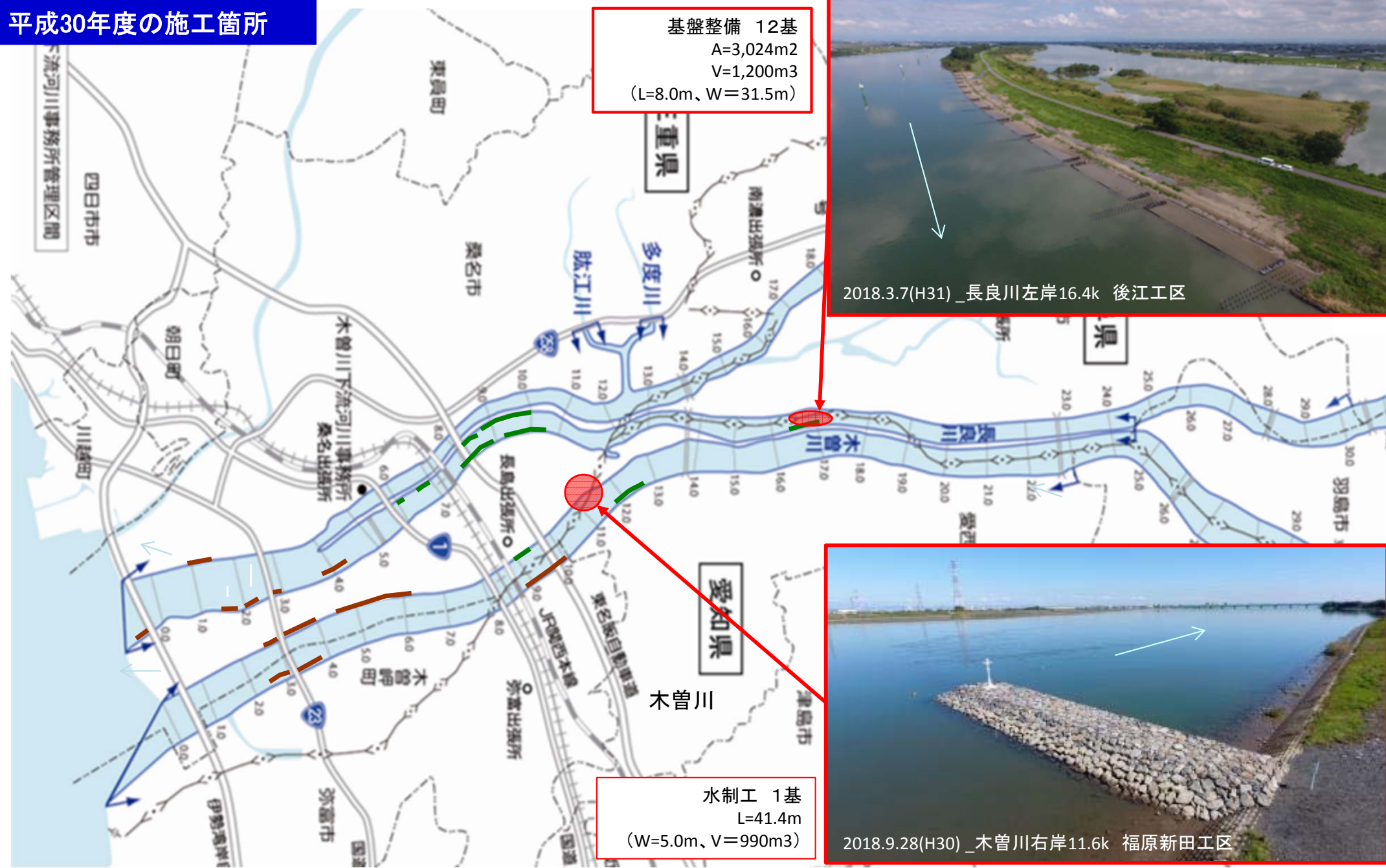
平成30年度モニタリング箇所における評価まとめ

- 平成30年度にモニタリングを実施した5箇所では、いずれも指標とする生物の利用が確認された。
- 短期モニタリング中である立田地区及び横満蔵地区は、引き続き、干潟の形成状況及び指標となる生物の定着状況をモニタリングにより把握する。
- 中長期モニタリングとなる城南地区及び下坂手地区は、指標となる生物が安定的に確認されており、これら生物の生息・生育環境と機能していると考えられた。一方で、松陰地区は、干潟が殆ど形成されておらず、再生整備の効果がまだ把握されていない状況であった。
- 下坂手地区は再生したヨシ原が維持されている箇所もあるが、場所によっては他の草本類や樹木の侵入が見られており、対策が必要となる可能性がある。
- 今後は、再生したヨシ原や干潟が形成、維持または拡大しているかを把握できるように、UAV等を用いて面的に把握していく。



2018年度 (H30) 施工箇所

平成30年度の施工箇所



地域との連携(2018年度(H30)の取り組みについて)

地域連携の強化

- 持続性のある自然環境の構築に向けて、河川環境保全モニターと地元高校生により、ヨシ苗の移植から維持管理、モニタリングまでの一連の取り組み過程を協働して実施している。
- 加えて、大学で開催されたシンポジウムにて、地元高校による協働作業の発表を行うことで河川環境教育やその普及・啓発を推進が期待される。

愛知黎明高校によるヨシ苗採取



2018.11.16(H30)_ヨシ苗採取 船頭平河川公園

ヨシ生育簡易モニタリング



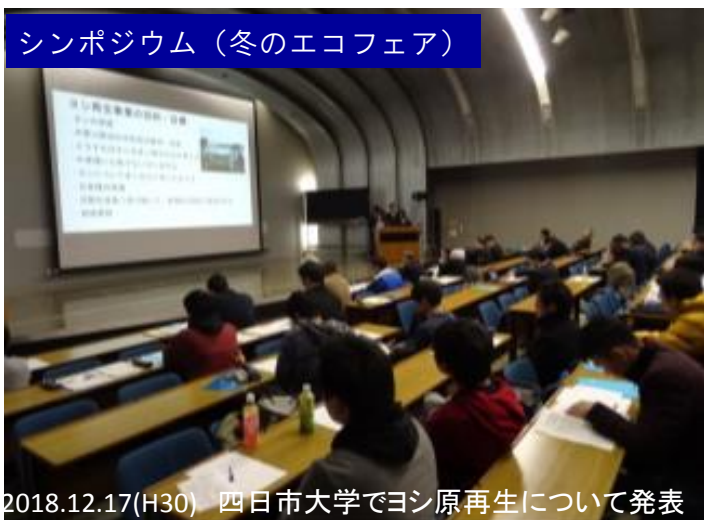
2018.3.7(H31)_長良川左岸16.4k 後江工区

出前授業



2018.11.13(H30)_愛知黎明高校

シンポジウム(冬のエコフェア)



2018.12.17(H30) 四日市大学でヨシ原再生について発表

ヨシ苗移植



2018.3.7(H31)_長良川左岸16.4k 後江工区

水生生物調査



2018.8.3(H30) 木曾川右岸26.0k

本川・支川・堤内地との連続性（生態系ネットワークの推進）

～ウナギでつなぐ海・川・田んぼ～

ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会

2019年3月22日(金)

■ 場所 木曾川下流河川事務所
【1階会議室】

■ 時間 14:30～17:00

■ 内容 1. ニホンウナギ勉強会
・時間 14:30～15:40

【講師】 望岡 典隆 氏

九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門
水産増殖学分野 准教授

2. ニホンウナギ生態系ネットワーク
推進部会

・時間 16:00～17:00

■ 問い合わせ先:

国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 担当:日高
TEL:058-251-1378 E-mail:hidaka-h85aa@mliit.go.jp

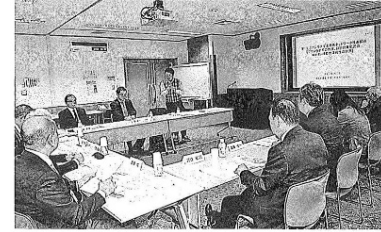
**自由参加
参加無料**

申し込み不要奮って
ご参加ください。



H31.3.22
ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会

ニホンウナギの生態系保全の方向性について協議する
委員ら＝22日午後、三重県桑名市備前、国土交通省木曾
川下流河川事務所



ウナギ保全 初会合

絶滅危惧種のニホンウナギの生態系保全を推進する
「ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会」が、
国土交通省木曾川下流河
川事務所で開催し、2019
年度内に推進計画を策定す
ることを確認した。河川環
境や生態系の調査などに取
り組む方針。
会合では、部長を務める
岐阜大流域圏科学研究セ



H31.3.22
ニホンウナギ勉強会



「取り組む範囲は狭いが、川由来のウナギを増やすための第一歩にしたい」とあ
た。部会は国土交通省が設置する
本川・支川・堤内地生態系ネット
ワーク推進協議会の下部組
織で、掛川川下流域の生態
環境の整備などが目的。ニ
ホンウナギに特化した部会
は国土交通省では初めて。
(大貫由子)

木曾三川生態系
ネットワーク協
新年度に計画策定

H31.3.23(土)
岐阜新聞
朝刊(社会・総合)
27頁

ニホンウナギ生態系ネットワーク推進部会委員名簿

各号50音順(行政所属別)／敬称略

号	氏名	所属・役職等
学識者	◎永山 滋也	岐阜大学流域圏科学研究センター 研究員
	望岡 典隆	九州大学大学院農学研究院 資源生物科学部門水産増殖学分野 准教授
	森 誠一	岐阜経済大学 経済学部 教授
民間団体等	三浦 秀人	海津市漁業協同組合 組合長
行政	遠藤 協一	岐阜県 大垣土木事務所 河川砂防課 課長
	河合 敏明	海津市 産業経済部 農林振興課 課長
	酒向 貴子	環境省 中部地方環境事務所 統括自然保護企画官 野生生物課長
	西原 均	国土交通省中部地方整備局 木曾川上流河川事務所 副所長
	日置 龍朗	国土交通省中部地方整備局 木曾川下流河川事務所 副所長

※委員は、必要がある場合には適宜追加する。